

にいがた教育フォーラム 2018 in March

古田島 恵津子

2018年3月3日(土)、新潟大学教職大学院院生の学びを報告し、新潟の教育についてともに考える「にいがた教育フォーラム 2018 in March」を教育学部において開催した。午前中は県内外の教員や関係者 200 名以上が、午後は、170 名以上が、ポスターセッション、ラウンドテーブルに参加した。

1. にいがた教育フォーラム 2018 in March プログラム

【午 前 の 部】			
9:50	開 会 の 挨 拶（高 橋 姿 学 長、小 久 保 美 子 専 攻 長）		
10:00	講 演 「 学 び 続 け る 教 師 」		
	独 立 行 政 法 人 国 立 高 等 専 門 学 校 機 構 監 事 加 治 佐 哲 也 氏		
【午 後 の 部】			
13:00	ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン （ M 2 : 1 7 名、M 1 : 1 3 名、教 員 1 名 ）		
14:15	ラ ウ ン ド テ ー ブ ル		
第 1 分 科 会	教 育 課 程 編 成	第 2 分 科 会	授 業 づ く り
第 3 分 科 会	生 徒 指 導 ・ 教 育 相 談	第 4 分 科 会	学 年 ・ 学 級 づ く り
第 5 分 科 会	学 校 経 営	第 6 分 科 会	特 別 支 援 教 育

2. 講演 「学び続ける教師」(概要)

講演の内容はおよそ以下のものであった。

- 1) 「学び続ける教師」育成のための大学教育の改革の必要性
- 2) 期待される大学改革・教職大学院の在り方
 - ・大学全体の教員養成・研修のセンターとしての役割強化
 - ・地域の教育課題解決のためのコンサルテーション機能向上
 - ・カリキュラム・マネジメント力やエビデンスに基づく教育実践の測定・評価力を身に付ける教育課程の改善
 - ・勤務しながら学ぶ教師へのラーニングポイント制の導入

今後一層、大学・教育委員会・学校の一体化が進み、教職大学院出身の教員の活躍による高評価の獲得が期待される。

3. ポスターセッション

2年生 17名、1年生 13名（当日1名欠席）、教員1名による31のポスター発表が行われた。60分間の時間一杯、自由に質疑応答がなされた。昨年に比べ発表本数が増えた分、参会者の興味関心に応じてセッションが実施され、活発な意見交換が行われた。院生からは、「校内での実践の価値や他校での汎用性を見出すことができ、今後の実践意欲が一層高まった」、「今後の研究を進める上で大変貴重なご示唆をいただき、多い時間となった」という感想があった。参会者から「現場に近い感覚で話を聞くことができたと思った。現場に還元できる実践・研究だった」、「院生の方々の研究を見聞きし、新しい視点を得ることができた。何げない活動でも、視点を変えてみることで、成果と課題が見えてくる。自校の教育に生かしていきたい」という声が聞かれた。

4. ラウンドテーブル

教員に限らず、事務職員、地域教育コーディネーター、教育関係企業、NPO法人職員等、多様な立場の参加者が140人以上参集した。ファシリテーターが院生だけで足りず、一般参会者にも複数人役割をお願いした。28人から話題提供の応募があり、その話題をきっかけに、それぞれの実践を聞き合い学び合った。また、話題提供者がないグループでもファシリテーターを中心に同様の学び合いが展開された。院生からは、「教室へ向かうエネルギーを得ることができ、有意義な時間となった」、参会者からは、「中学校や他教科の話を聞くことができ、とても参考になった。先生方が悩んでいた（考えていた）ことが私も同じで、どのようにされているのかが分かり、これから生かしたいと思った」、「関心をもったことについての知見が広がった。いろいろな立場の人が混ざることによって、普段ではできない話し合いとなった」という声が聞かれた。

5. 次年度に向けて

多様な立場の参会者が増え、『新潟の教育についてともに考える場』としての位置づけが認識されつつあると感じたフォーラムであった。さらに定着を図り、学校・教育委員会をつなぐ研修のハブとしての役割を果たしていきたい。